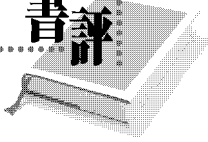


書評



Robert L. Spitzer, 他著／高橋三郎, 染矢俊幸訳

DSM-IV-TR ケースブック

コンパクトにまとめられた症例で、精神科診断学を整理

武田雅俊

本書は DSM-IV-TR の改訂にあわせて出版された症例集である。成人 145 症例，小児および青年期 37 症例，多軸評定のための症例 10 症例，世界各国からの 21 症例，歴史的 22 症例の合計 235 症例が記載されている。ご承知のように米国精神医学会は，1980 年に DSM-III，1987 年に DSM-III-R，そして 1994 年に DSM-IV を発表してきており，2000 年には DSM-IV-TR としてテキストが改訂されたが，この改訂にあわせて出版された症例集が本書である。収められた 235 症例のうち 42 症例は DSM-IV の改訂時に加えられたものであり，本症例集で新たに加えられた症例はなく，考察が一部分改訂されている。

他の診療科と比べても精神科の症例呈示は難しい。必要十分な情報をコンパクトにまとめるという課題は時として困難であり，豊富な知識と十分な経験とがあって初めて可能となる。初学者の頃，症例を呈示するときに，どこまで詳しく記載するかを悩みながら，なかなかコンパクトにまとめることができなかったことを思い出す。コンパクトにまとめるという作業は，「この部分を割愛しても大きな間違いが起らない」との判断に基づいて行うが，このような判断を下すためには，精神科の疾患全体についての包括的な知識と，同僚の精神科医のレベルについての理解とが必要である。このような条件を満たした症例呈示のモデルが本書には多数示されている。本書を通じて，症例呈示の仕方を学ぶことができる。

1～2 頁にコンパクトにまとめられた症例は，読者にもクイズを解くときのような知的作業を

要求する。各症例について，自分なりの DSM-IV の診断を考えながら読み進み，考察で提示された診断と一致したときにはクイズを解き終えたときのような安堵感が広がる。また，解答に至るプロセスについての考察の筋道が，自分の考えの筋道と一致しているときには，ある種の満足感を味わうことができる。

このような豊富な症例を通覧してみて非常に勉強になった。たとえば，DSM-IV では，小児・青年期に初めて診断される障害が一番に記載されており，その分類として，精神遅滞，学習障害，運動能力障害，コミュニケーション障害，広汎性発達障害，注意欠陥・破壊的行動障害，摂食障害，チック障害，排泄障害などに分類されていることはご承知の通りである。広汎性発達障害の下位分類として，自閉性障害，レット障害，小児期崩壊性障害，アスペルガー障害などがあるが，小児崩壊性障害とは，3 歳を過ぎてから出てくる自閉性障害に相当するものであり，その予後は自閉性障害と比較しても極めて悪いということを学んだ。症例とその考察を通読することにより知識が整理されてくる。

筆者が特に興味深く思った症例は，世界各国からの症例と歴史的症例である。世界各国からの症例として，それぞれの文化圏に特徴的な病態を呈する症例が呈示されており，DSM-IV の診断基準として頻用される「その人の属する文化から期待されるものより著しく偏った」内容が，具体的に文化圏によりどのように異なるかが解説されている。日本からの症例は「対人恐怖症」であるが，やはり，多くの人が指摘するように，この病態は DSM-IV にはなじまない

のであろう。考察で述べられているように、DSM-IVに当てはめようとする、患者が有する「自分が他者に不快な感情を引き起こす原因になっている」との先入観が、妄想、優価観念、恐怖のいずれかをまず決めることになる。患者はこの根拠のない観念に確信を抱いているだけでなく、患者の行動に著しい影響を及ぼしていることから、妄想と考えざるをえない。そして、妄想が唯一の精神症状であることから、その妄想が、属する文化圏において全く起こりえない奇異な内容かどうかを考えてみる。すると、日本という文化圏では必ずしも奇異とは受け取られてはいないことから、統合失調症は除外され、妄想性障害、特定不能型の診断になっている。対人恐怖症を妄想性障害に位置づけることにはためらいが大きい、このような観点から病態を見直していくと得られるものもあるかもしれない。

この症例集のエッセンスを味わいたいと思われる読者には、まず歴史的症例22例を読まれることをお勧めする。自分がこれまで教科書などで見聞きしてきた代表的な症例についてのDSM-IVの診断名と、その診断に至る道筋が示されている。特に Emil Kraepelin により記載された11症例については、精神科診断学の黎明期から現在の診断体系に至るまでの歴史の変遷を凝集して味わうことができる。DSM-IV-TRは精神障害の分類のための診断基準の羅列であり、通読するという性質のものではないが、参照するたびに本書の症例をあわせて味わうことになり、DSM-IV診断体系が咀嚼され、読者の血となり肉となることが期待できる。(大阪大学医学系研究科/プロセシング異常疾患解析学)

●A5 596頁 2003 本体8,500円 医学書院刊

妄想とパースペクティヴ性

認識の監獄 ブランケンブルク編/山岸洋・野間俊一・和田信訳

「遠近」をキーワードに展開される精神病理学の新たな展開。フォン・バイヤー、ベネデッティ、グラツツェル、クノル、クラウス、シャルフェッター、ヴィンクラーらによる考察。●A5/198p/本体3500円(税別) ISBN4-906502-26-1 / 2003

精神医学の構造力動的基礎

W・ヤンツァーリク 岩井一正・古城慶子・西谷勝治 訳

還元主義からも人間論的精神医学からも一定の距離を保ちつつ、精神病理学の「第三の道」とも評される「構造力動論」の大規模な試論を提示。●A5/上製/326p/本体6500円(税別) ISBN4-906502-06-7 / 1996

精神分裂病の概念

E・フロイラー 人見一彦 監訳/向井泰二郎・笹野京子 訳

古典的論文「早発性痴呆(精神分裂病)の予後」をはじめ、「自閉」「両価性」といった今日では周知の精神病理学的概念を開示した重要論文を集成。●A5/上製/200p/本体4200円(税別) ISBN4-906502-11-3 / 1997

オイゲン・フロイラー 精神医学書

M・フロイラー校訂/切替辰哉訳(全3巻/分売不可)

中央洋書オリジナル版(1988-1990)全3巻の構成 I 精神医学総論 II 器質性精神障害とてんかん III 内因性精神障害と心因性精神障害 ●頒価19500円(税別) ISBN4-906502-08-3 / 1996

Two Millennia of Psychiatry in West and East

Just Published!

Edited by T. HAMANAKA & G. E. BERRIOS (英文版・東西精神医学の2000年) / 208p. 4000 Yen ISBN4-906502-25-3

※ご注文は最寄りの書店、大学生協書籍部にお願いたします。小社への直接注文も承ります(要送料)。

学樹書院 164-0014 東京都中野区南台4-60-1 TEL 03-5385-5065 / FAX 03-5385-4186

URL <http://www.gakuju.com>

E-MAIL info@gakuju.com

Gakuju Shoin, Publishers Ltd.